2012年3月期 決算説明会

2012年5月16日

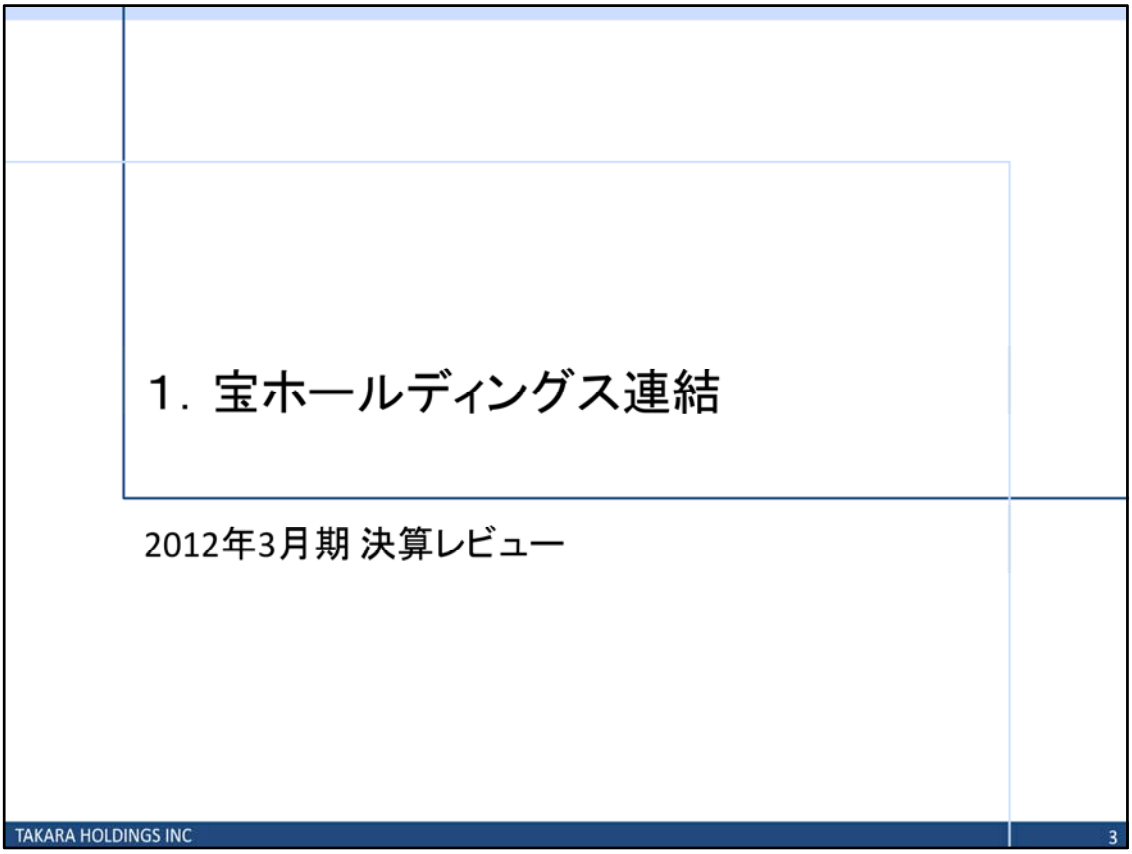
宝ホールディングス株式会社

- 宝ホールディングスの大宮です。
- 本日は、お忙しいところ、当社グループの2012年3月期の決算説明会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

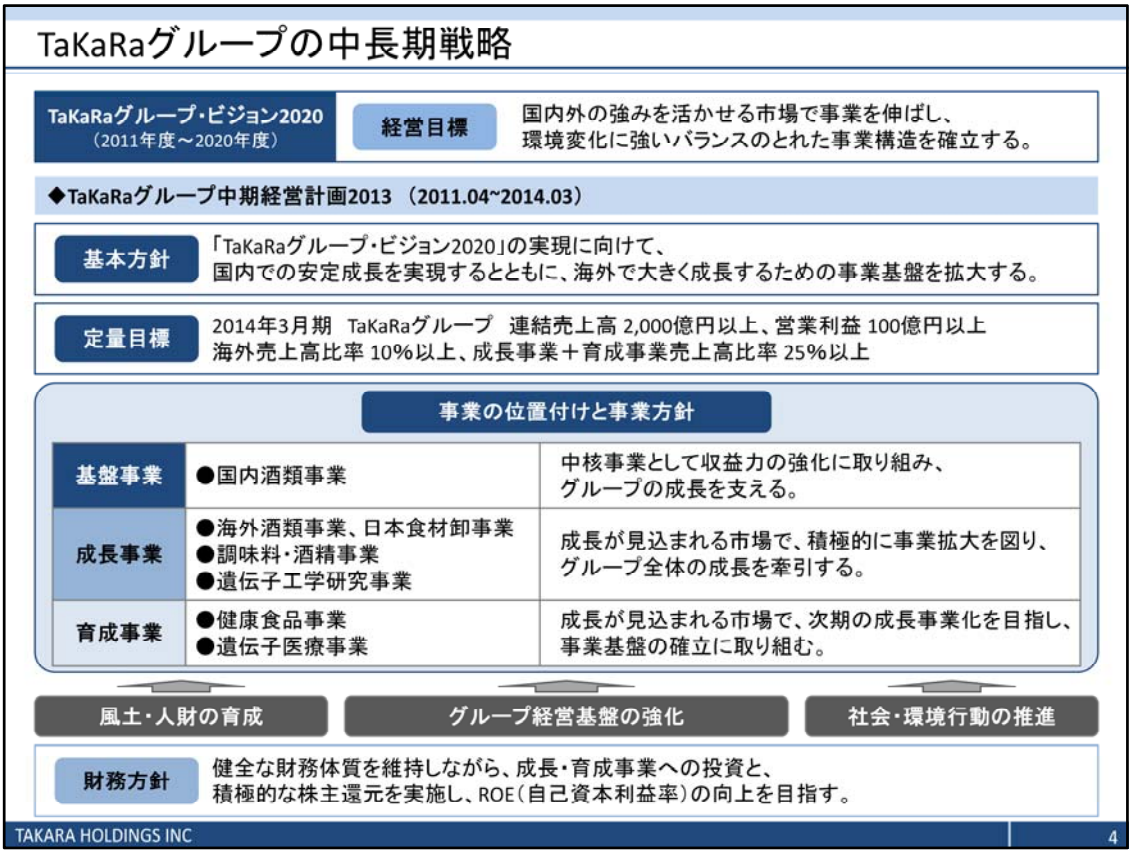
本日の内容

1. 宝ホールディングス連結
   - 2012年3月期 決算レビュー
2. 宝酒造グループ
   - 2012年3月期 決算レビュー
   - 2013年3月期 活動計画、業績予想
3. 宝ヘルスケア社 概況
4. 宝ホールディングス連結
   - 2013年3月期 業績予想

• 本日は、ご覧の順番で説明いたします。



• まずは、宝ホールディングス連結の2012年3月期の事業概況ならびに決算について説明いたします。



- はじめに、昨年の4月からスタートしております長期経営ビジョンと中期経営計画について確認します。

- 長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」では、『国内外の強みを活かせる市場で事業を伸ばし、環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立する』ことを経営目標に掲げています。

- また、中期経営計画では、『「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けて、国内での安定成長を実現するとともに、海外で大きく成長するための事業基盤を拡大する』ことを基本方針に掲げ、定量目標として、2014年3月期の売上高2,000億円以上、営業利益100億円以上を目指すとともに、海外売上高比率10%以上、成長事業と育成事業の売上高比率25%以上を目指しています。

宝HLD連結_P/L概要（2012年3月期）

◆総括

- 東日本大震災による経済活動への影響に早期に対応し、増収・増益。過去最高の売上高を達成。
- 連結売上高・連結営業利益・連結経常利益・連結当期純利益の全てにおいて業績予想を上回り、4月26日に業績予想の修正を発表。
- 積極的な株主還元を実施 ：株主還元総額2,921百万円、株主還元性向51.7%
  配当金を8.5円→9.0円に増配（配当総額1,851百万円）、220万株（1,070百万円）の自己株式取得（2011年11-12月）

（単位：百万円）	12/03期 実績	前期比 増減	前期比 率(%)	1/30予想比 増減	1/30予想比 率(%)
宝酒造G	175,503	8,713	5.2	1,403	0.8
タカラバイオG	19,578	840	4.5	△ 21	△ 0.1
宝ヘルスケア	2,338	△ 229	△ 8.9	△ 61	△ 2.6
その他	1,269	△ 403	△ 24.1	△ 29	△ 2.3
売上高	198,690	8,921	4.7	1,290	0.7
売上原価	121,462	5,982	5.2	962	0.8
売上総利益	77,228	2,939	4.0	328	0.4
販管費	67,963	2,009	3.0	△ 336	△ 0.5
宝酒造G	6,768	199	3.0	68	1.0
タカラバイオG	1,547	449	41.0	246	19.0
宝ヘルスケア	△ 114	137	ー	5	ー
その他	1,063	142	15.4	344	47.9
営業利益	9,264	929	11.2	664	7.7
経常利益	9,617	1,189	14.1	717	8.1
当期純利益	3,995	207	5.5	695	21.1

◆グループ別の決算概況

- 宝酒造グループ
  家庭内飲酒の需要を捉えてソフトアルコール飲料を中心に売上を伸ばし、原材料価格の高騰を克服して営業増益を達成。
- タカラバイオグループ
  研究用試薬や細胞医療関連事業（技術支援、培地・バッグ）の売上を伸ばし、3期連続の営業増益を達成。
- 宝ヘルスケア
  利益率の高い健康食品の売上を伸ばし、営業損失を改善。

◆法人税率の変更による影響

- 当期純利益への影響額
  法人税等調整額の増加により、▲656百万円のマイナス影響。

（注） 1/30予想は、2011年11月4日公表の業績予想（11/4予想）から当期純利益のみを修正（法人税率の変更を考慮）したものであり、売上高・営業利益・経常利益につきましては、11/4予想を変更しておりません。

TAKARA HOLDINGS INC 5

- 2012年3月期の事業概況を振り返りますと、東日本大震災による経済活動への影響が大きく、当社でも、宝酒造の物流拠点が被害を受けましたが、早期に生産・供給体制を整えるなど対応に努めました。

- 決算につきましては、前期比では売上高は宝酒造グループ・タカラバイオグループともに増収となり、宝ホールディングス連結では8,921百万円増収の198,690百万円と、過去最高の売上高を達成しました。
- また、営業利益は全てのグループで増益となり、宝ホールディングス連結では929百万円増益の9,264百万円、経常利益は1,189百万円増益の9,617百万円となりました。
- 当期純利益につきましては、震災による特別損失を計上したほか、法人税率の変更に伴うマイナスの影響が656百万円発生しましたが、207百万円増益の3,995百万円となりました。

- 1月30日に発表した予想と比べましても、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の全てにおいて予想を上回り、4月26日に業績予想の修正を発表いたしました。

- また、株主還元につきましては、先日発表の通り、1株当たりの配当金を9円に増配し、昨年の11月から12月に実施した自己株式取得と合わせて株主還元性向は51.7%となりました。

宝HLD連結_営業外損益・特別損益（2012年3月期）

◆営業外損益

（単位：百万円）	11/03期 実績	12/03期 実績	増減
営業外収益	923	1,074	151
受取利息	144	177	32
受取配当金	328	362	34
持分法投資利益	76	49	△ 27
補助金収入	104	193	89
その他	268	291	23
営業外費用	831	722	△ 109
支払利息	227	182	△ 45
社債利息	339	319	△ 19
社債発行費	76	―	△ 76
為替差損	22	68	45
その他	165	151	△ 13
営業外損益収支	92	352	260

◆特別損益

（単位：百万円）	11/03期 実績	12/03期 実績	増減
特別利益	567	446	△ 121
固定資産売却益	72	233	160
投資有価証券売却益	417	2	△ 414
その他	77	210	132
特別損失	1,489	1,473	△ 16
投資有価証券評価損	254	108	△ 145
固定資産除売却損	238	404	165
震災による特別損失	396	754	357
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	424	―	△ 424
係争和解費用	113	―	△ 113
その他	61	206	144
特別損益収支	△ 922	△ 1,027	△ 104

◆震災による特別損失（2012年3月期 実績内訳）

（単位：百万円）

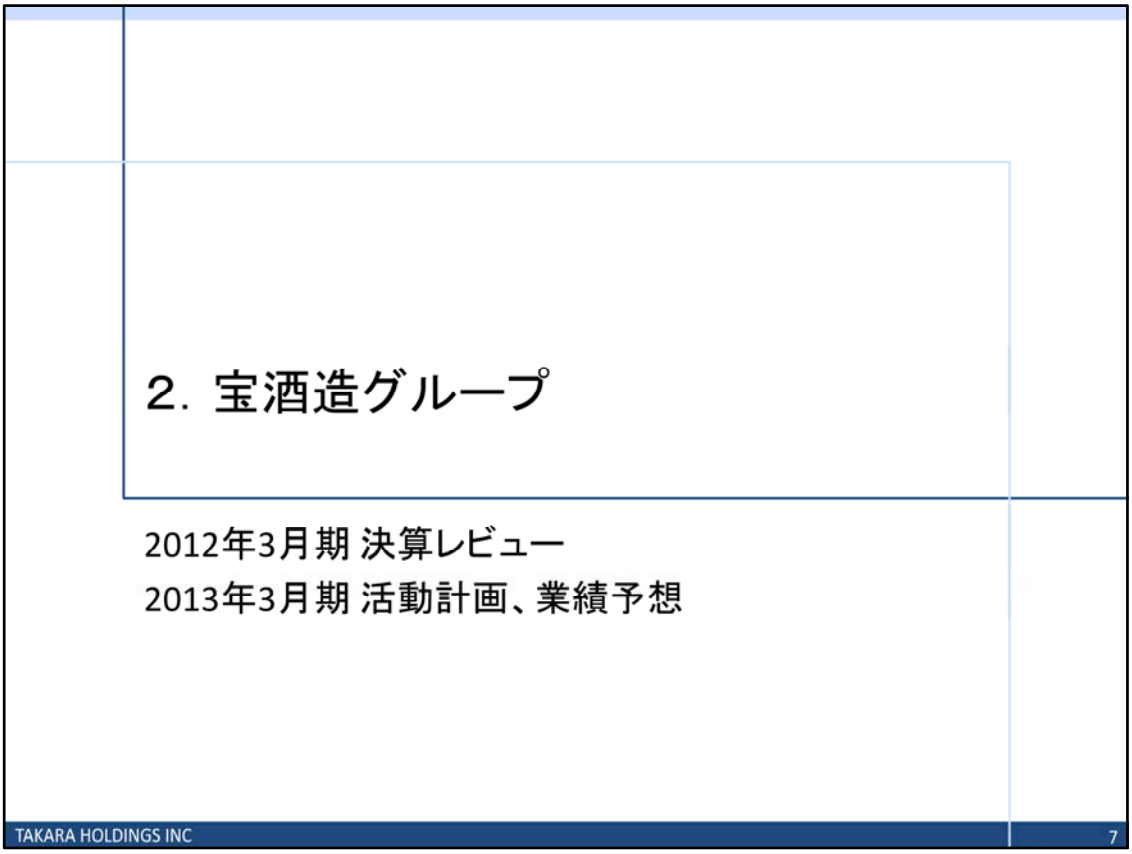
宝酒造（単体）	782
内訳 棚卸資産評価損・廃棄作業料等	430
建物・機械装置修繕料等	44
代替倉庫料等	296
その他	10
その他（連結消去含む）	▲28
合計	754

TAKARA HOLDINGS INC 6

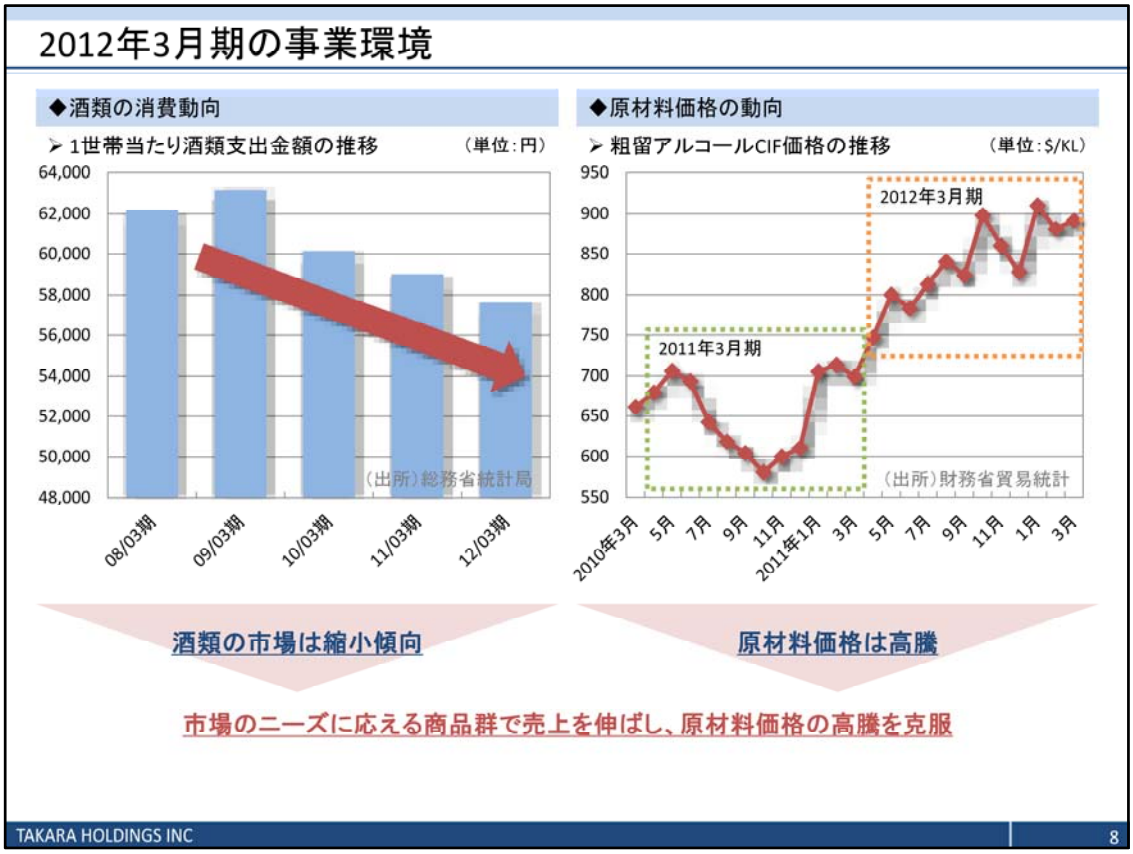
- 営業外および特別損益の概要です。

- 営業外損益は、補助金収入の増加や、社債発行費の減少などにより前期に比べ260百万円のプラスとなりました。

- 一方、特別損益は、前期に比べ104百万円のマイナスとなりました。
- なお、震災による特別損失は754百万円を計上し、前期からの累計では1,150百万円となりました。



- 続いて、宝酒造グループの2012年3月期の決算および2013年3月期の活動計画と業績予想について説明いたします。



- まずは、2012年3月期の事業環境を振り返りますと、酒類の市場は引き続き縮小傾向にあるうえに、原材料価格は高騰し高止まりの状態となっています。

- このように非常に厳しい事業環境ではありますが、宝酒造グループでは市場のニーズに応える商品群で売上を伸ばし、原材料価格の高騰を克服してまいりました。

宝酒造G_P/L概要（2012年3月期）

（単位：百万円）	12/03期 実績	前期比 増減	前期比 率(%)	1/30予想比 増減	1/30予想比 率(%)
焼酎	73,458	762	1.0	1,258	1.7
清酒	20,967	170	0.8	△ 132	△ 0.6
ソフトアルコール飲料	26,725	4,472	20.1	△ 274	△ 1.0
その他酒類	10,776	1,102	11.4	676	6.7
本みりん	14,718	△ 213	△ 1.4	△ 181	△ 1.2
その他調味料	7,423	332	4.7	23	0.3
原料用アルコール等	6,512	237	3.8	△ 287	△ 4.2
その他	14,922	1,848	14.1	322	2.2
売上高	175,503	8,713	5.2	1,403	0.8
売上原価	110,454	6,251	6.0	1,154	1.1
売上総利益	65,049	2,461	3.9	249	0.4
運送費、保管料	6,725	357	5.6	△ 74	△ 1.1
広告宣伝費	3,342	65	2.0	△ 57	△ 1.7
販売促進費等	31,433	1,587	5.3	233	0.7
研究開発費	371	△ 16	△ 4.2	△ 78	△ 17.3
管理費、その他	16,407	267	1.7	157	1.0
販管費	58,280	2,261	4.0	180	0.3
営業利益	6,768	199	3.0	68	1.0

◆売上高の主な増減理由
（単位：百万円）

➢ 前期比

宝酒造単体の要因
＜焼酎＞
焼酎甲類 +852
焼酎乙類 +343
混和焼酎 ▲314
＜ソフトアルコール飲料＞
焼酎ハイボール +2,398
直搾り +1,456
子会社の要因
＜その他＞
フーデックス社 +1,682

➢ 1/30予想比

宝酒造単体の要因
＜焼酎＞
焼酎甲類 +578
焼酎乙類 +185
混和焼酎 +509
子会社の要因
＜その他＞
フーデックス社 +263

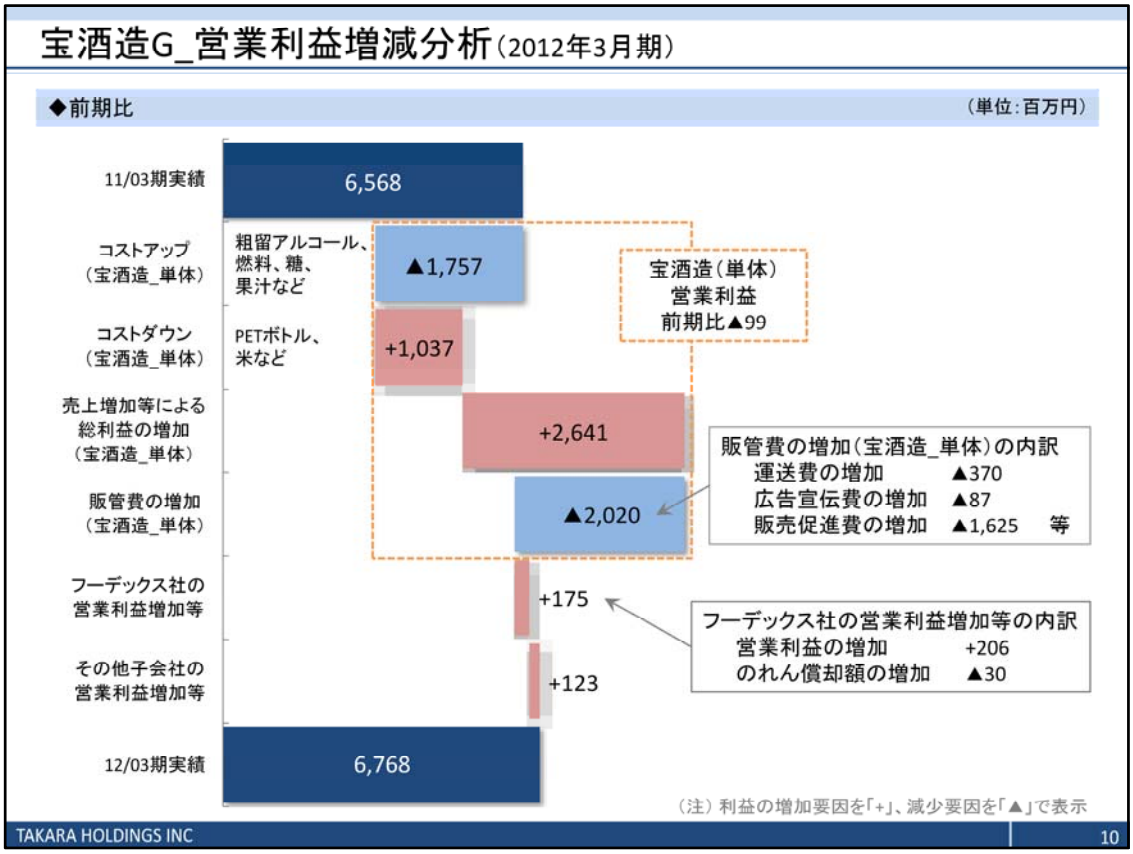
（注） 1/30予想は、2011年11月4日公表の業績予想（11/4予想）から当期純利益のみを修正（法人税率の変更を考慮）したものであり、売上高・営業利益・経常利益につきましては、11/4予想を変更しておりません。

TAKARA HOLDINGS INC 9

- 宝酒造グループの損益の概要です。

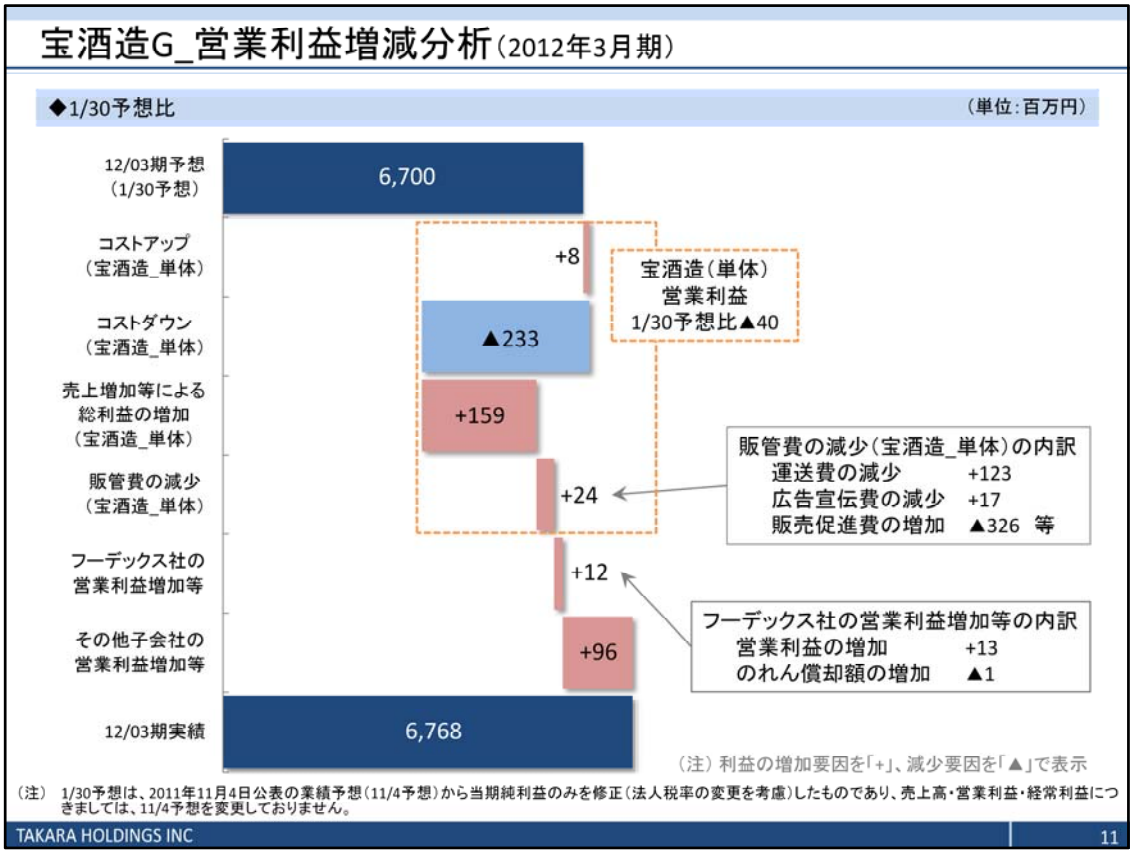
- 前期比では、売上高は8,713百万円増収の175,503百万円となり、大幅な増収によって原材料価格の高騰をカバーし、営業利益は199百万円増益の6,768百万円となりました。

- 増収の主な要因を確認しますと、焼酎では甲類・乙類ともに増収となったほか、清酒では松竹梅「天」のエコパウチやスパークリング清酒「澪」などの新商品が寄与して増収となりました。
- また、ソフトアルコール飲料では焼酎ハイボールや直搾りを中心に4,472百万円の増収となりました。

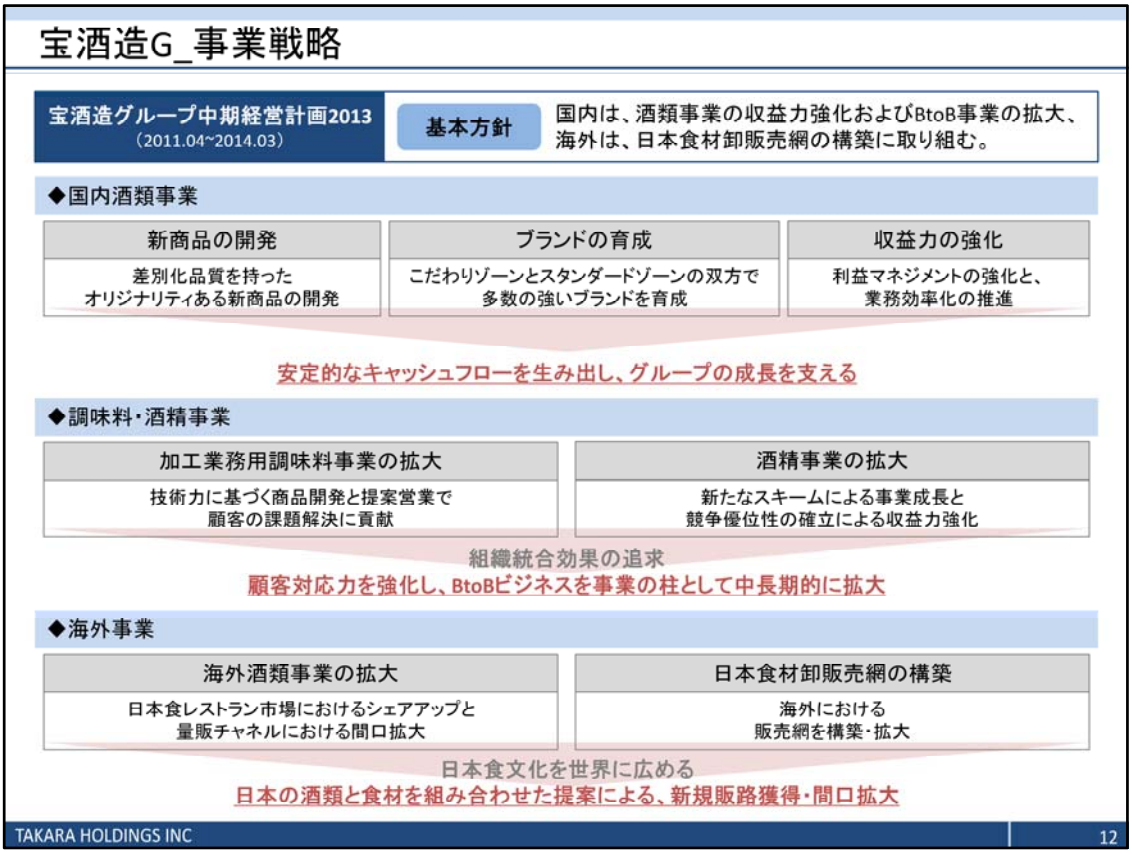


- 営業利益の増減を確認します。

- まず、前期比では、コストアップが1,757百万円、コストダウンが 1,037百万円となり、差し引き720百万円のコストアップとなりました。
- 売上の増加などによる総利益の増加が2,641百万円となりましたが、販管費において、運送費、広告宣伝費、販売促進費が増加し、宝酒造単体の営業利益は前期比99百万円の減益となりました。
- 一方、子会社ではフーデックス社をはじめ、その他の子会社でも営業利益が増加し、宝酒造グループ連結では199百万円の増益となりました。



• 1月30日公表の予想比で営業利益の増減を確認しますと、宝酒造単体の営業利益は40百万円の未達となりましたが、宝酒造グループ連結では68百万円、予想を上回りました。



- 続いて、2013年3月期の活動計画について説明いたします。
- まずは宝酒造グループの中期経営計画を確認します。

- 宝酒造グループでは『国内は、酒類事業の収益力強化およびB to B事業の拡大、海外は、日本食材卸販売網の構築に取り組む』ことを基本方針に掲げています。

- それぞれの分野における事業戦略につきまして、まず国内酒類事業では、新商品の開発、ブランドの育成、収益力の強化を3本柱に据え、安定的なキャッシュフローを生み出してグループ全体の成長を支えることを目指しています。

- 調味料・酒精事業では、加工業務用調味料と酒精のそれぞれの分野で事業を伸ばすとともに、両方の商品に共通するお客様に対する提案力を強化することを目指し、将来的には宝酒造グループの事業の柱となるようB to Bビジネスとしての拡大を目指しています。

- 海外事業では、酒類と日本食材卸の両事業の拡大を通じて日本食文化を世界に広め、清酒やみりんなどの日本の酒類や食材の販路拡大を目指しています。

- 各事業における、活動計画を説明いたします。

- まず、国内酒類事業では、高齢化や人口減少による胃袋マーケットの縮小、節約志向・デフレの継続など、引き続き厳しい事業環境が続くと考えられますが、そのような中で、強みを活かせる市場で事業を伸ばしていきたいと考えています。

- 宝酒造グループの強みとは、焼酎・清酒・ソフトアルコール飲料・調味料の各カテゴリーにおいて、こだわりゾーン・スタンダードゾーンのそれぞれに「商品力」のあるブランドを多数ラインナップしていることであります。
- このような商品戦略によって、多様化する消費者ニーズにきめ細かく対応し、幅広いお客様から支持を得て、売上を伸ばしていきたいと考えています。

- 国内酒類事業の各カテゴリーにおける戦略を説明します。

- まず、焼酎につきましては、「極上宝焼酎」、「よかいち」、「一刻者」、「知心剣」を中心にブランド育成を継続してまいります。

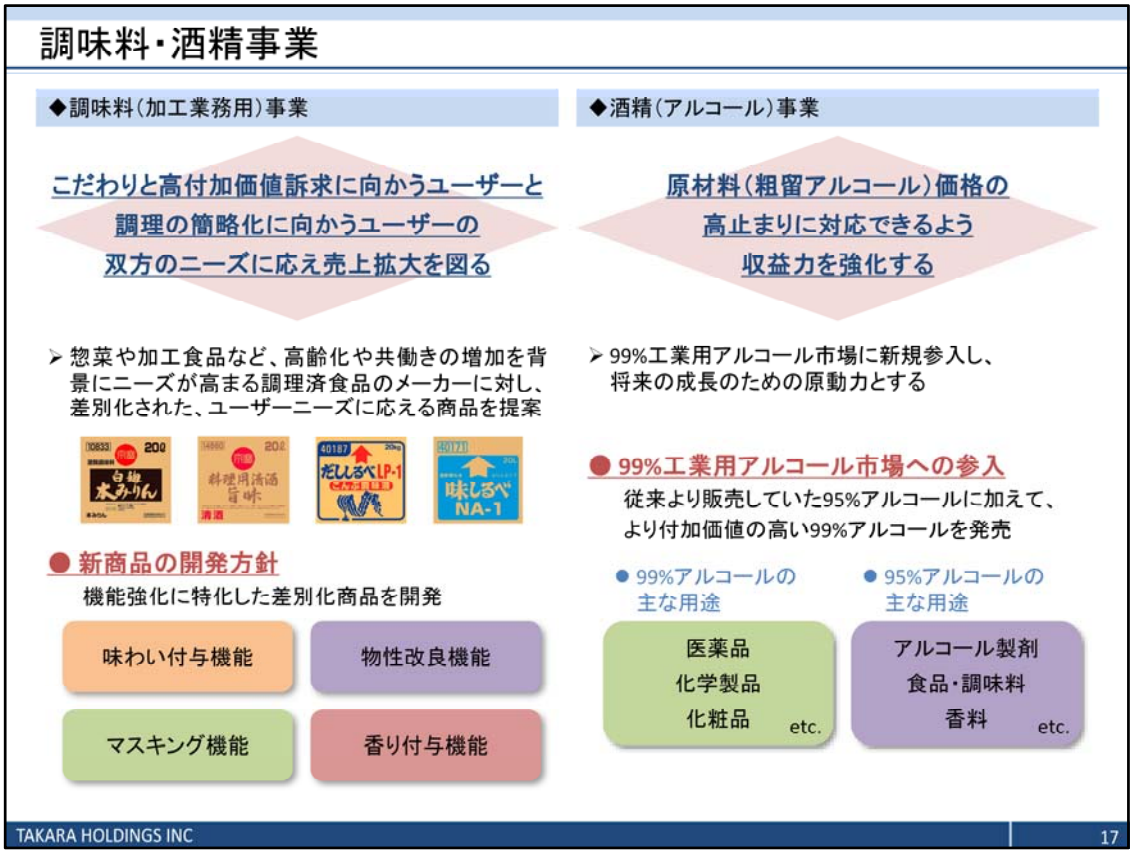
- 「極上宝焼酎」では、宝焼酎の発売100周年を機に消費者キャンペーンや広告宣伝を実施します。
- 「よかいち」では、昨年、「黒よかいち」のラインナップを強化しましたが、今年は樽貯蔵したタイプの「琥珀のよかいち」を発売することで、さらにラインナップを強化し、幅広いお客様のニーズを捉えてまいります。
- 「一刻者」と「知心剣」につきましては、飲み方提案などを通じ、じっくりとブランド育成を続けてまいります。

- 次に、清酒ですが、昨年発売した新商品も順調に育ってきていますので、今期は特に清酒の売上を伸ばすことで宝酒造グループの増収を牽引したいと考えています。

- 商品ごとの戦略を説明しますと、清酒パックでは、昨年発売し好評をいただいております「エコパウチ」を、夏向けの冷酒である「まろやか冷酒」でも発売します。
- 業務用の専用ブランドである松竹梅「豪快」では、昨年発売した生酒と合わせてブランド育成を継続し、飲食店におけるシェアアップを目指してまいります。
- 松竹梅白壁蔵では、スパークリング清酒「澪」を食前酒として、「生酛」シリーズの商品を食中酒として提案し、白壁蔵ブランドの育成を強化してまいります。

- ソフトアルコール飲料では、順調に売上を伸ばしている「焼酎ハイボール」について、ブランド育成を継続し、今期は100億円以上の売上を目指します。
- 「直搾り」では、アルコール分3%の「くちどけ」シリーズを発売し、特に女性のライトユーザーを獲得してまいります。

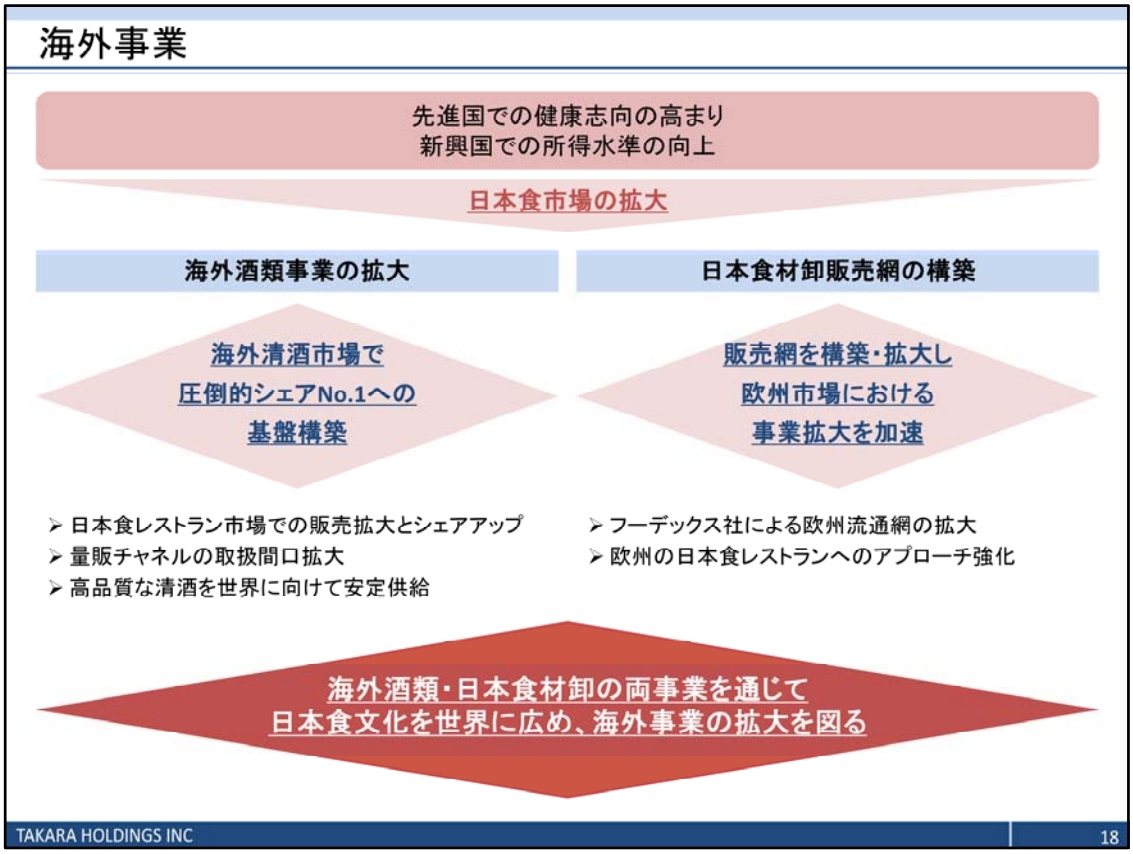
- 家庭用調味料では、エコパウチ入りの料理清酒を発売しました。
- エコパウチ入りの商品は、飲む方の清酒で、「天」と「まろやか冷酒」の2商品、調味料で1商品の合計3商品となります。
- エコパウチは、形が自由に変わるので冷蔵庫の空いた隙間に収納しやすく、また、ゴミ捨ての際に分別の必要がないなど利便性が高く、特に主婦の方々から非常に好評をいただいており、調味料にも適したパッケージであると考えています。



- 続いて、調味料・酒精事業について説明いたします。

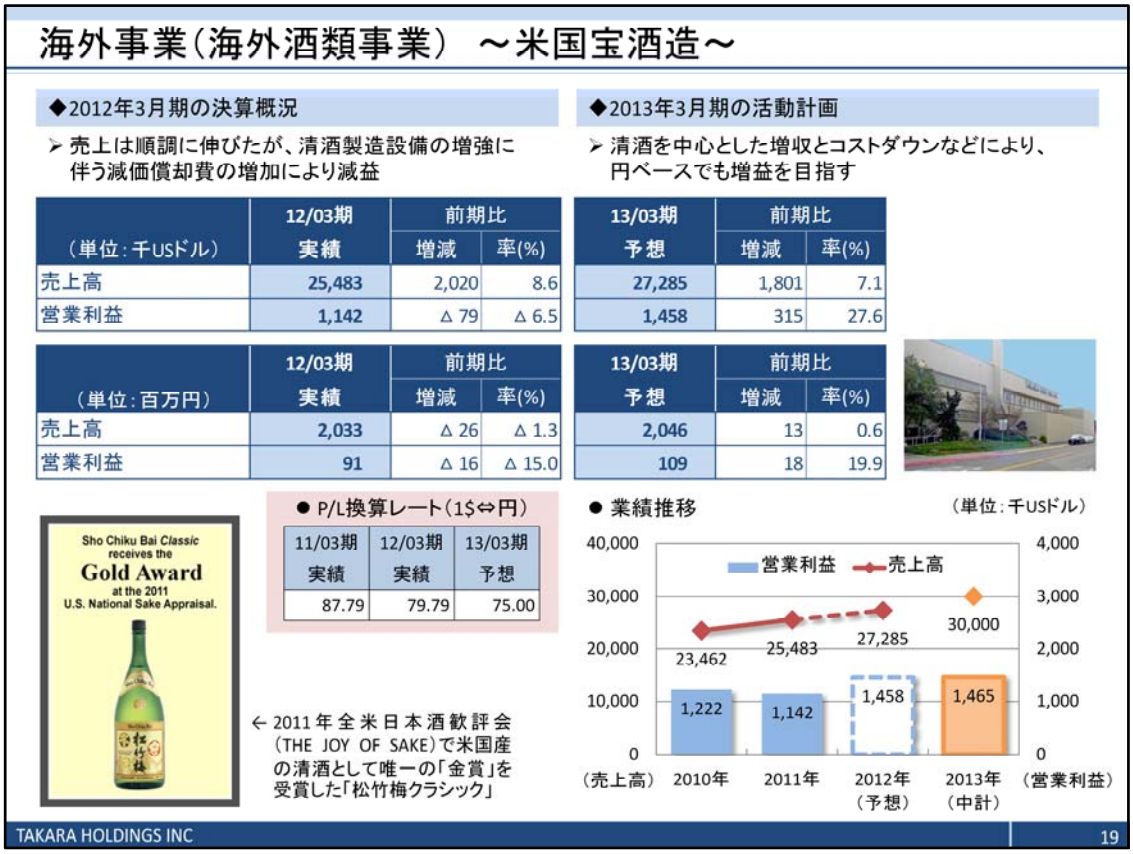
- まず、加工業務用の調味料事業では、ユーザーのニーズに応える商品をご提案し売上の拡大を目指します。
- 新商品の開発については、味わいを付与する機能や、食材の嫌な匂いをマスキングする機能など、機能強化に特化した差別化商品を開発してまいります。

- 次に、酒精事業では、原材料価格の高止まりに対応できるよう収益力の強化を目指します。
- その収益力強化の戦略として、また今後の成長のための原動力として、99%工業用アルコールの市場に新規参入を行います。
- これまで販売していた95%工業用アルコールに加えて、より付加価値の高い99%工業用アルコールを発売することで、お取引先の裾野を広げてまいりたいと考えています。



- 続いて、海外事業について、まずは全体戦略を再確認いたします。

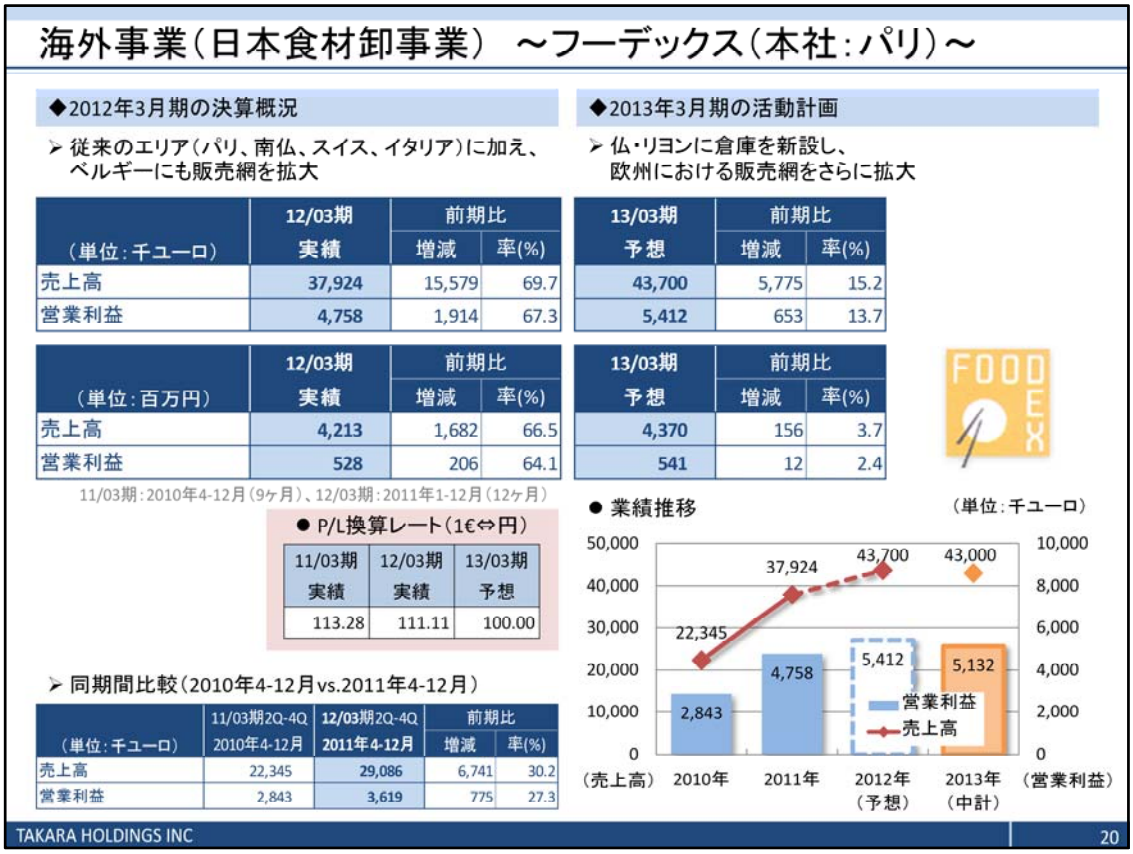
- 先進国での健康志向の高まりや、新興国での所得水準の向上を背景に、海外における日本食市場は拡大傾向にあります。
- このような環境において、宝酒造グループの海外事業では、清酒やみりんなど、日本のお酒や調味料を販売する海外酒類事業と、欧州で日本食材の輸入卸を行う日本食材卸事業の2つの事業を中心に展開しており、この両事業を通じて、日本食文化を世界に広めるとともに、海外での、より一層の事業拡大を目指しています。



- 海外酒類事業および日本食材卸事業の具体的な活動内容について、まずは米国宝酒造の活動内容を説明いたします。

- 米国宝酒造の2012年3月期の業績は、ドルベースでの売上高が前期比8.6%の増収となりました。
- 一方で、清酒製造設備の増強に伴い減価償却費が増加したため、営業利益は6.5%の減益となりました。

- 2013年3月期は、清酒を中心に売上を伸ばすとともに、生産効率の向上などによるコストダウンも行い、増収・増益を目指します。



海外事業（日本食材卸事業） ～フーデックス（本社：パリ）～

◆2012年3月期の決算概況

➢ 従来のエリア（パリ、南仏、スイス、イタリア）に加え、ベルギーにも販売網を拡大

（単位：千ユーロ）	12/03期 実績	前期比 増減	前期比 率(%)
売上高	37,924	15,579	69.7
営業利益	4,758	1,914	67.3

（単位：百万円）	12/03期 実績	前期比 増減	前期比 率(%)
売上高	4,213	1,682	66.5
営業利益	528	206	64.1

11/03期：2010年4-12月（9ヶ月）、12/03期：2011年1-12月（12ヶ月）

◆2013年3月期の活動計画

➢ 仏・リヨンに倉庫を新設し、欧州における販売網をさらに拡大

	13/03期 予想	前期比 増減	前期比 率(%)
売上高	43,700	5,775	15.2
営業利益	5,412	653	13.7

	13/03期 予想	前期比 増減	前期比 率(%)
売上高	4,370	156	3.7
営業利益	541	12	2.4

● P/L換算レート（1€⇔円）

11/03期 実績	12/03期 実績	13/03期 予想
113.28	111.11	100.00

➢ 同期間比較（2010年4-12月vs.2011年4-12月）

（単位：千ユーロ）	11/03期2Q-4Q 2010年4-12月	12/03期2Q-4Q 2011年4-12月	前期比 増減	前期比 率(%)
売上高	22,345	29,086	6,741	30.2
営業利益	2,843	3,619	775	27.3

● 業績推移

TAKARA HOLDINGS INC 20

- 次に、フーデックス社の状況です。

- 業績については、通年寄与したこともあり、ユーロベースでの売上高が前期比69.7%の増収、営業利益は67.3%の増益となりました。
- なお、同期間で比較しても、順調に業績を伸ばしています。

- 2012年3月期は、ベルギーに子会社を設立し、販売網を拡大しましたが、2013年3月期は、フランスのリヨンに倉庫を新たに設置するなど、欧州における販売網をさらに拡大し、増収・増益を目指します。

宝酒造G_2013年3月期 業績予想

（単位：百万円）	13/03期 上期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	13/03期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)
焼酎	35,600	△ 1,129	△ 3.1	72,800	△ 658	△ 0.9
清酒	7,800	435	5.9	21,800	832	4.0
ソフトアルコール飲料	14,400	△ 812	△ 5.3	27,400	674	2.5
その他酒類	5,000	85	1.7	10,500	△ 276	△ 2.6
本みりん	6,800	△ 84	△ 1.2	14,800	81	0.6
その他調味料	3,700	195	5.6	8,000	576	7.8
原料用アルコール等	2,600	△ 497	△ 16.1	6,200	△ 312	△ 4.8
その他	7,800	510	7.0	16,500	1,577	10.6
売上高	83,700	△ 1,296	△ 1.5	178,000	2,496	1.4
売上原価	53,200	△ 552	△ 1.0	111,800	1,345	1.2
売上総利益	30,500	△ 744	△ 2.4	66,200	1,150	1.8
運送費、保管料	3,200	△ 190	△ 5.6	6,800	74	1.1
広告宣伝費	2,000	179	9.9	3,700	357	10.7
販売促進費等	15,400	316	2.1	32,000	566	1.8
研究開発費	200	17	9.5	400	28	7.5
管理費、その他	7,900	△ 297	△ 3.6	16,300	△ 107	△ 0.7
販管費	28,700	25	0.1	59,200	919	1.6
営業利益	1,800	△ 769	△ 30.0	7,000	231	3.4

◆売上高の主な増減理由
（単位：百万円）

➢ 上期（1Q-2Q累計）

宝酒造単体の要因

＜焼酎＞
混和焼酎 ▲1,052

＜清酒＞
松竹梅「天」 +169
松竹梅白壁蔵 +254

＜ソフトアルコール飲料＞
焼酎ハイボール +743
直搾り ▲1,131

➢ 通期

宝酒造単体の要因

＜焼酎＞
焼酎乙類 +974
混和焼酎 ▲1,555

＜清酒＞
松竹梅「天」 +441
松竹梅白壁蔵 +559

＜ソフトアルコール飲料＞
焼酎ハイボール +1,804
直搾り ▲800

◆業績予想のポイント

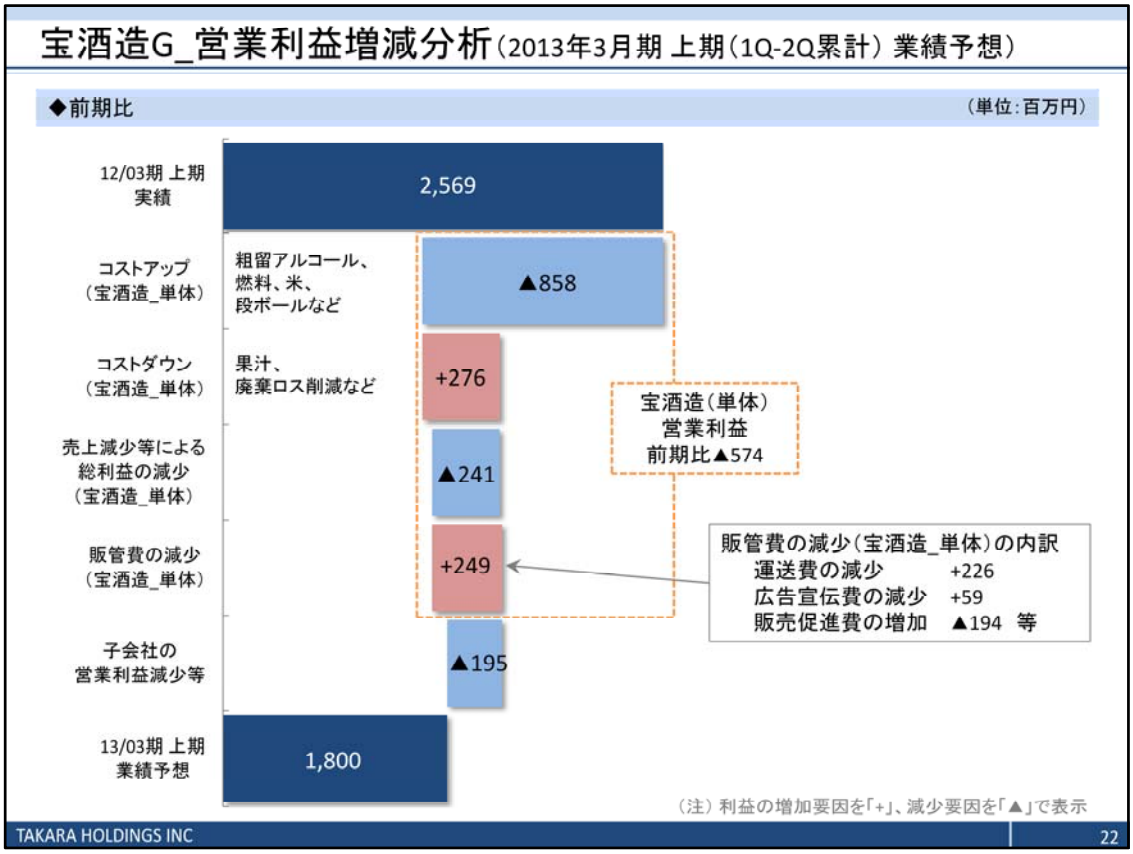
➢ 上期（1Q-2Q累計）は、家庭内飲酒需要の急増の裏返しによる減収・コストアップなどの影響により減益の予想。
➢ 既存商品の育成に加え、新商品を上乗せし、通期では、増収・増益を目指す。

TAKARA HOLDINGS INC 21

- 宝酒造グループの業績予想について説明いたします。

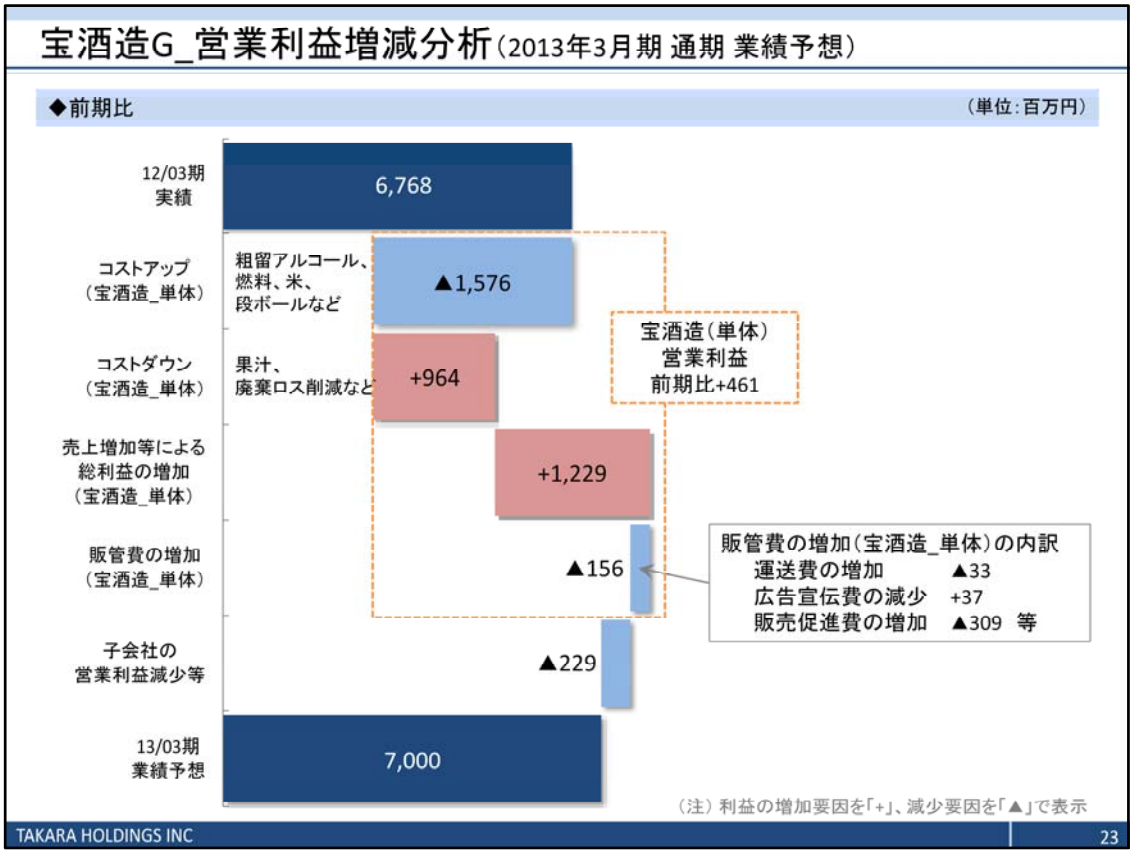
- 上期（1Q−2Q累計）は、前期に一時的に家庭内飲酒の需要が急増していたことを考慮し、その裏返しで減収となり、さらにコストアップも想定されるため減益の予想としております。

- 通期では、既存商品の育成に加え、新商品の発売などによって売上を伸ばし、売上高は前期比2,496百万円増収の178,000百万円を計画しています。
- 売上の増加によってコストアップを吸収し、営業利益は前期比231百万円増益の7,000百万円を計画しています。

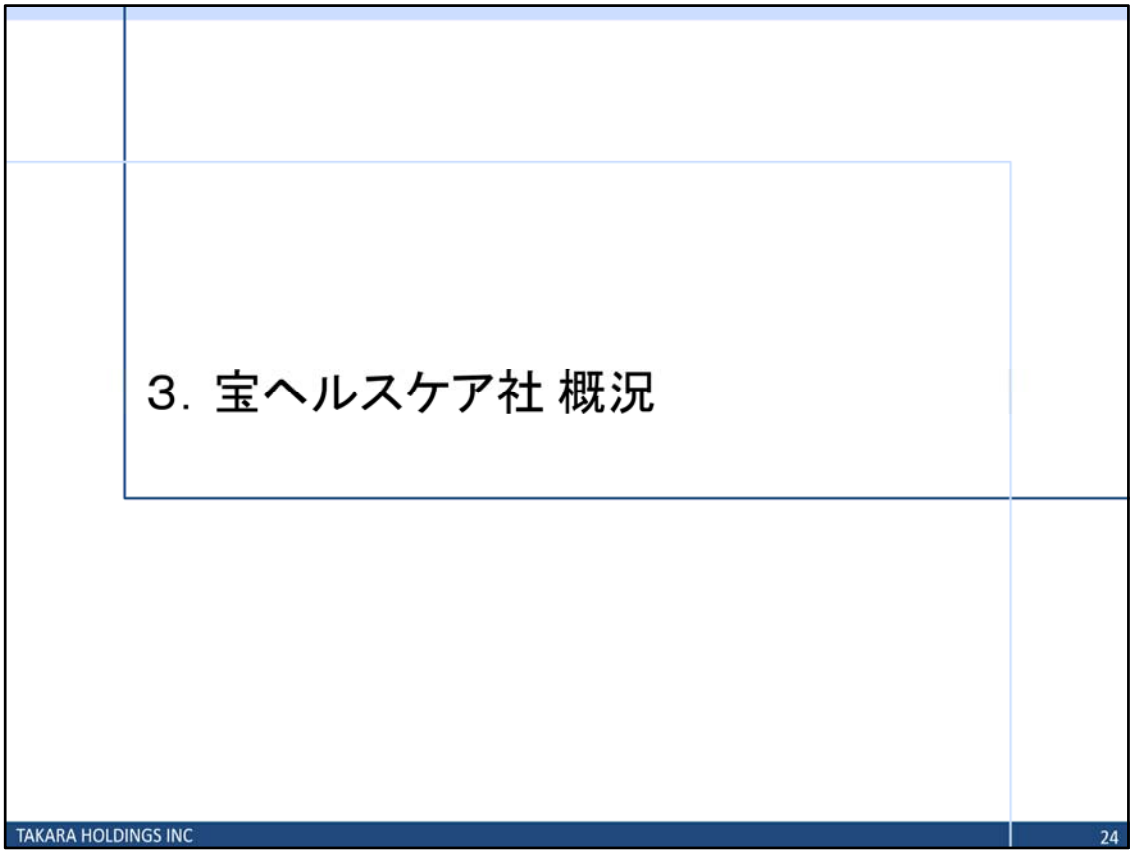


- 営業利益の増減につきまして、まずは上期（1Q-2Q累計）から確認します。

- コストアップが858百万円、コストダウンが276百万円となり、差し引き582百万円のコストアップとなる見込みです。
- その結果、宝酒造単体の営業利益は前期比574百万円の減益となり、宝酒造グループ連結では769百万円の減益予想となります。



- 通期では、コストアップが1,576百万円、コストダウンが964百万円となり、差し引き611百万円のコストアップとなる見込みですが、売上の増加などによってこれをカバーし、宝酒造単体の営業利益は前期比461百万円の増益を計画しています。
- 子会社の営業利益の減少を見込んでいますが、宝酒造グループ連結では前期比231百万円増益の7,000百万円を計画しています。



• 次に、宝ヘルスケア社の概況について説明いたします。

宝ヘルスケア社 概況

◆2012年3月期の決算概況

➢ 利益率の高いヘルスケア事業の売上を伸ばし、営業損失を改善

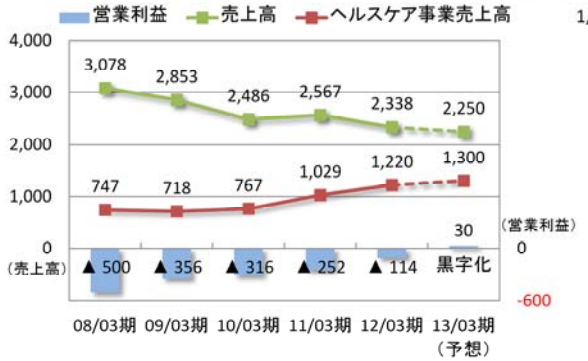
（単位：百万円）	12/03期 実績	前期比 増減	前期比 率(%)
ヘルスケア事業	1,220	190	18.5
その他	1,117	△ 420	△ 27.3
売上高	2,338	△ 229	△ 8.9
営業利益	△ 114	137	-

◆2013年3月期の活動計画

➢ ヘルスケア事業の柱である「フコイダン」シリーズの成長を加速させ、黒字化を目指す

	13/03期 予想	前期比 増減	前期比 率(%)
ヘルスケア事業	1,300	―	△ 100.0
その他	950	―	△ 100.0
売上高	2,250	△ 88	△ 3.8
営業利益	30	114	-

◆宝ヘルスケア社の業績推移 （単位：百万円）

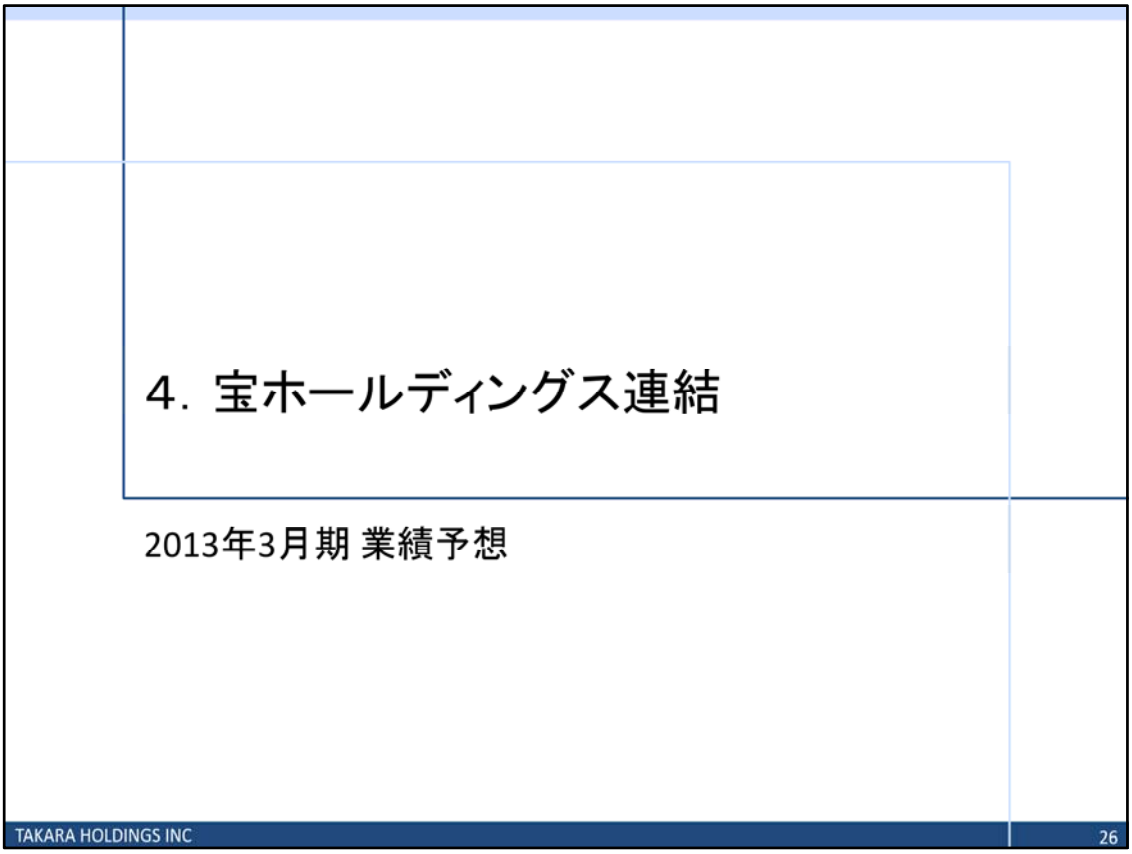


◆フコイダンの売上高推移 （単位：百万円）

TAKARA HOLDINGS INC 25

- 2012年3月期は、利益率の高い健康食品を扱うヘルスケア事業の売上を伸ばし、営業損失を137百万円改善いたしました。

- 2013年3月期は、引き続き、ヘルスケア事業の柱である「フコイダン」シリーズの売上を伸ばし、宝ヘルスケア社設立以来、初の黒字化を目指します。



• 続いて、宝ホールディングス連結の2013年3月期の業績予想について説明いたします。

宝HLD連結_2013年3月期 業績予想

（単位：百万円）	13/03期 上期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	13/03期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)
宝酒造G	83,700	△ 1,296	△ 1.5	178,000	2,496	1.4
タカラバイオG	9,562	920	10.7	21,100	1,521	7.8
宝ヘルスケア	1,250	△ 76	△ 5.8	2,250	△ 88	△ 3.8
その他	588	74	14.5	1,450	180	14.2
売上高	95,100	△ 378	△ 0.4	202,800	4,109	2.1
売上原価	58,900	316	0.5	123,900	2,437	2.0
売上総利益	36,200	△ 695	△ 1.9	78,900	1,671	2.2
販管費	33,600	30	0.1	69,400	1,436	2.1
宝酒造G	1,800	△ 769	△ 30.0	7,000	231	3.4
タカラバイオG	413	19	5.0	1,600	52	3.4
宝ヘルスケア	3	89	-	30	144	-
その他	384	△ 64	△ 14.3	870	△ 193	△ 18.2
営業利益	2,600	△ 726	△ 21.8	9,500	235	2.5
営業外収益	450	△ 23	△ 4.9	950	△ 124	△ 11.6
営業外費用	450	102	29.4	800	77	10.8
経常利益	2,600	△ 851	△ 24.7	9,650	32	0.3
特別利益	ー	△ 214	-	900	453	101.7
特別損失	200	△ 1,194	△ 85.7	1,600	126	8.6
税引前当期純利益	2,400	128	5.7	8,950	359	4.2
法人税等	1,100	△ 94	△ 7.9	3,850	△ 323	△ 7.8
少数株主利益	100	△ 17	△ 14.8	500	78	18.5
当期純利益	1,200	240	25.0	4,600	604	15.1

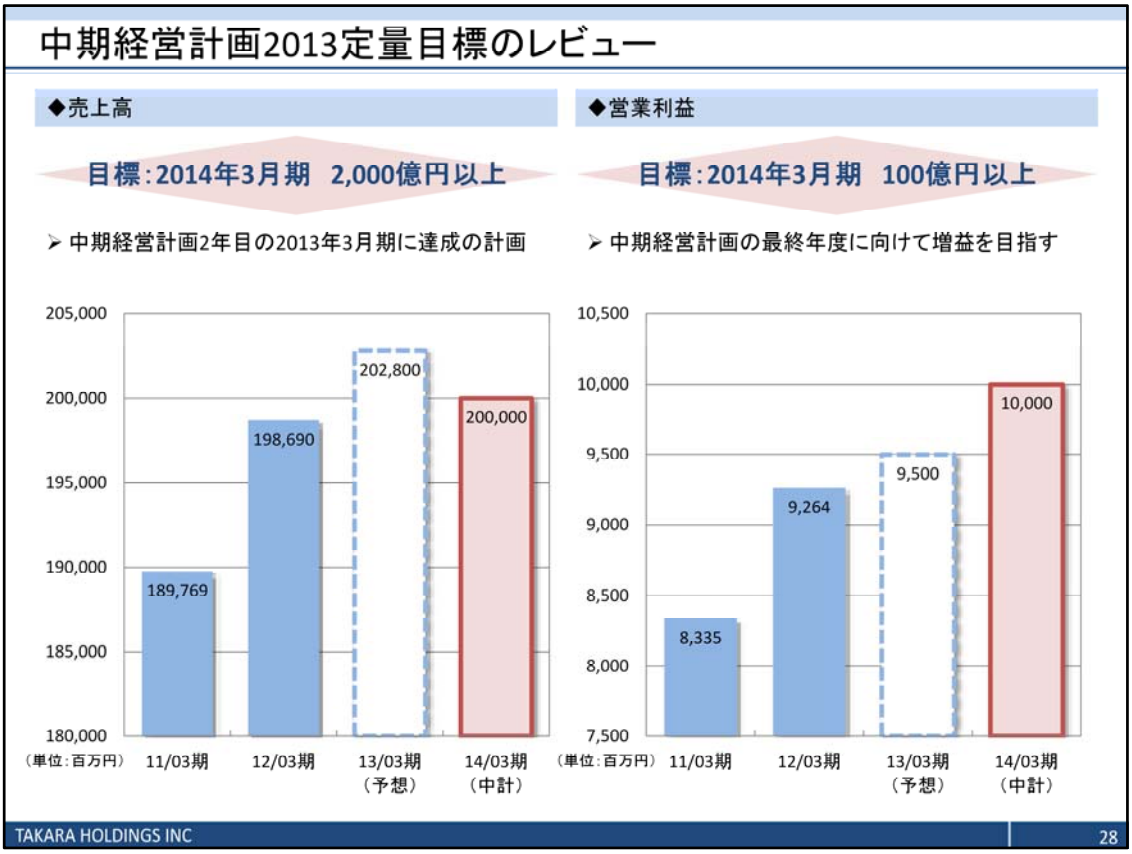
◆業績予想のポイント

- 上期（1Q-2Q累計）
  宝酒造グループの減収・減益により、連結売上高・連結営業利益は減収・減益の予想。
  四半期純利益については、特別損失（震災による損失など）の減少により増益の予想。
- 通期
  宝酒造グループ、タカラバイオグループともに増収となり、連結売上高も増収の予想。
  営業利益は、宝酒造グループ、タカラバイオグループともに増益、宝ヘルスケアも黒字化し、増益の予想。

TAKARA HOLDINGS INC 27

- 上期（1Q-2Q累計）は、宝酒造グループで減収・減益となり、宝ホールディングス連結でも、売上高、営業利益、経常利益は、減収・減益の予想としております。
- 一方、四半期純利益につきましては、震災による特別損失の減少などにより増益を見込んでいます。

- 通期では、宝酒造グループ・タカラバイオグループともに増収の計画で、売上高は前期比4,109百万円増収の202,800百万円を計画しています。
- 営業利益は、宝酒造グループ・タカラバイオグループの増益に加え、宝ヘルスケアも黒字化し、宝ホールディングス連結では前期比235百万円増益の9,500百万円を計画しています。



- 最後に、2014年3月期を最終年度とする中期経営計画の定量目標について確認いたします。

- 売上高は2,000億円以上を目指していますが、2013年3月期の売上高は2,028億円を計画しており、1年前倒しでの達成を目指します。

- 営業利益につきましては100億円以上を目指しており、最終年度での達成に向けて増益基調を続けてまいります。

- 以上で、私からの説明を終了いたします。
- ご静聴ありがとうございました。

＜参考資料＞

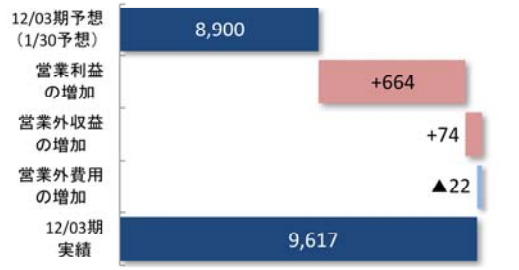
宝HLD連結_包括利益計算書（2012年3月期）

（単位：百万円）	11/03期 実績	12/03期 実績	増減
少数株主損益調整前当期純利益	4,042	**4,417**	374
その他の包括利益合計	△ 3,570	**△ 839**	2,731
その他有価証券評価差額金	△ 1,260	**53**	1,313
繰延ヘッジ損益	△ 40	**17**	57
為替換算調整勘定	△ 2,227	**△ 892**	1,335
持分法適用会社に対する持分相当額	△ 42	**△ 18**	24
包括利益	471	**3,577**	3,106
（内訳）			
親会社株主に係る包括利益	633	**3,314**	2,681
少数株主に係る包括利益	△ 161	**263**	424

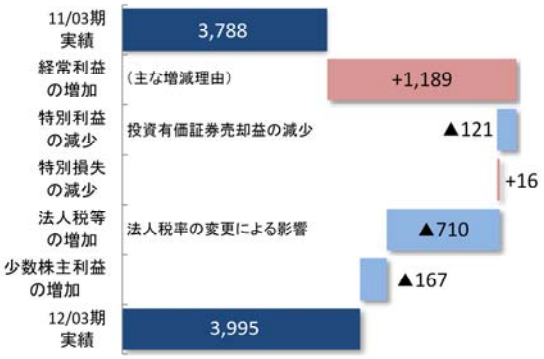
宝HLD連結_経常利益・当期純利益増減分析（2012年3月期）

◆経常利益_前期比　（単位：百万円）

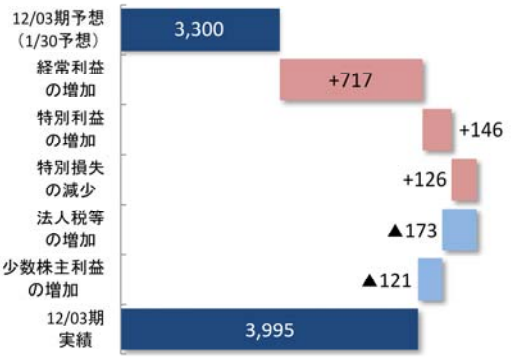
◆経常利益_1/30予想比　（単位：百万円）



◆当期純利益_前期比　（単位：百万円）



◆当期純利益_1/30予想比　（単位：百万円）

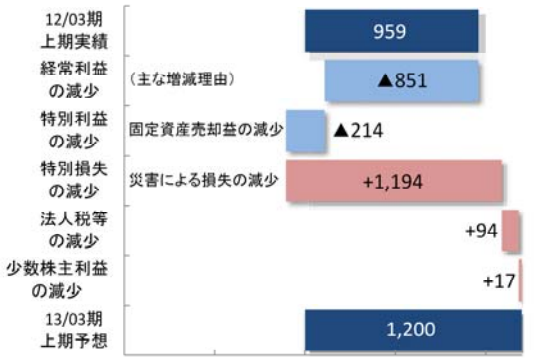


宝HLD連結_経常利益・当期純利益増減分析（2013年3月期 業績予想）

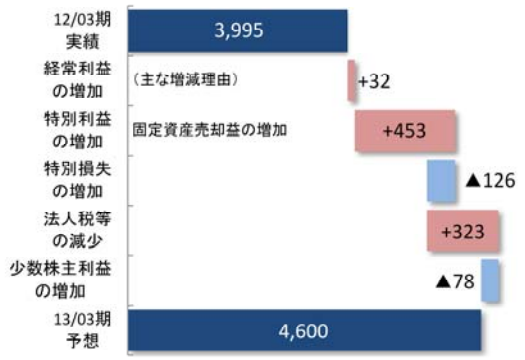
◆経常利益_上期（1Q-2Q累計）　（単位：百万円）

◆経常利益_通期　（単位：百万円）

◆四半期純利益_上期（1Q-2Q累計）　（単位：百万円）



◆当期純利益_通期　（単位：百万円）



宝HLD連結_B/S概要：資産（2012年3月期末）

（単位：億円）	11/03末	12/03末	増減
流動資産	1,197	**1,260**	63
現金及び預金	327	**308**	Δ 19
受取手形及び売掛金	451	**507**	56
有価証券	126	**156**	29
たな卸資産	242	**244**	1
その他	48	**43**	Δ 4
固定資産	727	**713**	Δ 13
有形固定資産	416	**419**	3
無形固定資産	60	**52**	Δ 7
のれん	40	**35**	Δ 4
その他	20	**17**	Δ 3
投資その他資産	250	**241**	Δ 9
投資有価証券	185	**184**	Δ 0
その他	65	**56**	Δ 8
資産合計	1,924	**1,974**	49

◆主な増減理由　（単位：億円）

- 現金及び預金 Δ19 → TH Δ26.4　TS +2.7　TB +4.5
- 受取手形及び売掛金 56 → TS +48.7　TB +8.1
- 有価証券 29 → TH +10.0　TS +10.6　TB +9.2
- たな卸資産 1 → TS Δ1.2　TB +2.1
- 有形固定資産 3 / 無形固定資産 Δ7 → 当期の有形・無形固定資産の増減内訳

当期の有形・無形固定資産の増減内訳	
新規取得	+53.3（TS +27.4　TB +9.2）
減価償却	Δ44.3（TS Δ32.2　TB Δ10.7）
その他増減	Δ13.4

（TH：宝HLD、TS：宝酒造グループ、TB：タカラバイオグループ）

宝HLD連結_B/S概要：負債・純資産（2012年3月期末）

（単位：億円）	11/03末	12/03末	増減
流動負債	414	512	97
支払手形及び買掛金	134	139	4
借入金・社債	51	100	48
その他	227	272	44
固定負債	441	385	Δ 55
借入金・社債	255	204	Δ 50
その他	185	180	Δ 5
負債合計	855	897	42
株主資本合計	963	975	11
資本金・資本剰余金	164	164	Δ 0
利益剰余金	857	880	22
自己株式	Δ 58	Δ 69	Δ 10
その他包括利益累計額	Δ 20	Δ 27	Δ 6
少数株主持分	125	128	2
純資産合計	1,068	1,076	7

◆主な増減理由　（単位：億円）

- 4 → TB +4.9
- 48 → TH 第8回普通社債 +50.0 （2012年9月償還）
- Δ 50 → TH Δ50.0 （第8回普通社債→流動負債へ）
- 22 → TS +11.3　TB +10.2
- Δ 10 → TH 自己株式取得 Δ10.7
  - 2011年11月-12月に市場買付にて取得（株主還元策）
  - ・取得株数　2,200,000株
  - ・取得金額　1,070,457,000円

（TH：宝HLD、TS：宝酒造グループ、TB：タカラバイオグループ）

宝HLD連結_キャッシュ・フロー（2012年3月期）

（単位：億円）	11/03期 実績	12/03期 実績	増減
営業CF ①	94	90	△ 4
税金等調整前当期純利益	75	85	10
減価償却費	45	44	△ 1
その他償却費	5	5	△ 0
のれん償却額	2	2	0
売上債権の増減（△：増加）	9	△ 57	△ 67
たな卸資産の増減（△：増加）	△ 4	△ 4	△ 0
仕入債務*の増減（△：減少）	△ 4	30	35
法人税等の支払額	△ 36	△ 25	11
その他	1	8	7
投資CF ②	△ 113	△ 47	65
固定資産の取得	△ 31	△ 44	△ 12
固定資産の売却	0	6	5
有価証券・投資有価証券の取得	△ 36	△ 20	15
有価証券の売却・償還	22	16	△ 5
投資有価証券の売却	8	0	△ 8
関係会社株式・出資金の取得	―	△ 0	△ 0
関係会社株式・出資金の売却	0	△ 0	△ 1
連結範囲の変更を伴う子会社株式・出資金の取得等による支出	△ 33	―	33
その他	△ 44	△ 5	38
フリーCF ①+②	△ 18	42	60

*仕入債務には未払酒税を含む

（単位：億円）	11/03期 実績	12/03期 実績	増減
財務CF	△ 31	△ 32	△ 0
配当金の支払	△ 17	△ 17	0
自己株式取得・売却	△ 12	△ 10	1
ファイナンスによる収入	100	△ 0	△ 101
ファイナンスによる支出	△ 100	△ 0	99
その他	△ 2	△ 2	△ 0
現金及び現金同等物増減	△ 52	7	60
現金及び現金同等物残高	283	291	7

為替前提（子会社P/L換算レート）

（単位：円）	11/03期 (10年1月-12月) 実績	12/03期 (11年1月-12月) 実績	前期差	13/03期 (12年1月-12月) 予想	前期差	中期経営計画 (12/03期-14/03期) 想定レート
ドル	87.79	79.79	-8.00	75.00	-4.79	80.00
ポンド	135.53	128.01	-7.52	115.00	-13.01	130.00
ユーロ	116.28	111.11	-5.17	100.00	-11.11	110.00
元	12.96	12.35	-0.61	12.00	-0.35	12.50
100ｳｫﾝ	7.59	7.21	-0.38	6.70	-0.51	7.00
ｲﾝﾄﾞﾙﾋﾟｰ	―	1.67	―	1.60	-0.07	―

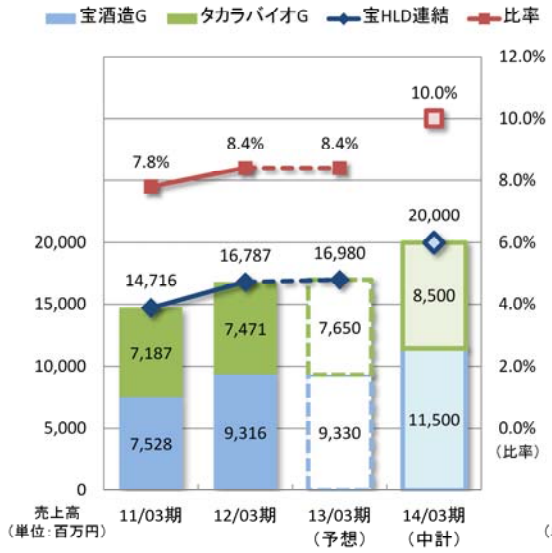
2011年5月6日-12月末の平均レート

【フーデックス社の11/03期P/L換算レート】
1€=¥113.28（2010年4-12月平均レート）

海外売上高比率・成長事業＋育成事業売上高比率

◆海外売上高比率

中期経営計画目標値
2014年3月期　10%以上



◆成長事業＋育成事業売上高比率

中期経営計画目標値
2014年3月期　25%以上

株主還元について

◆TaKaRaグループ中期経営計画2013 （2011.04~2014.03）の財務方針

財務方針　健全な財務体質を維持しながら、成長・育成事業への投資と、積極的な株主還元を実施し、ROE（自己資本利益率）の向上を目指す。

健全な財務体質の維持

◆格付「シングルA」の維持

成長・育成事業への投資

◆成長事業と育成事業に対して優先的に投資

積極的な株主還元

◆配当と自己株式取得を合わせ株主還元性向50%以上を実施

健全な財務体質の維持

成長・育成事業への投資

積極的な株主還元

→ ROEの向上

$$\text{株主還元性向} = \frac{\text{株主還元総額（配当総額＋自己株式取得総額）}}{\text{みなし連結当期純利益*}} \geqq 50\%$$

*みなし連結当期純利益＝（連結経常利益－受取利息・配当金＋支払利息）×（1－法定実効税率）

利益成長と自己資本のコントロールにより、ROEの向上を目指す

資料中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。
実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

＜お問合せ＞
宝ホールディングス株式会社　財務・IR部
Tel. 075-241-5124
E-Mail　ir@takara.co.jp